

\*\*\*\*\*

「海の生き物を守る会」メールマガジン No. 64

2010.8.16 (月)



Association for Protection of Marine Communities (AMCo)

Homepage : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

\*\*\*\*\*

**「今月の日本の海 愛知県田原湾汐川干潟**

愛知県三河湾は日本の三大内湾に数えられるが、その有機汚染はひどく、今でも赤潮の発生は一年中におよぶ。東京湾や有明海と同様に、汚染の原因の一つは埋め立てによる干潟の消失である。その三河湾の最奥部から細い水路でつながる田原湾は今も残る汐川干潟で有名。かつては 2000 ha という広大な干潟だったがここも埋め立てで現在では 280 ha に減少



している。干潟にはエドガワミズゴマツボ、カワグチツボ、ヘナタリガイ、ウミニナなど準絶滅危惧種の巻貝が生息する。さらなる埋め立て計画があったが、市民の運動で現在では埋め立て計画は凍結されたままで

ある。

(愛知県豊橋市汐川干潟 遠景は三河港大橋 向井 宏撮影 2008.10)

\*\*\*\*\*

目次 「今月の日本の海」愛知県田原湾汐川干潟

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース
2. 海の生き物を守る会の現在の活動と予定
3. 海の生き物を守る会活動報告
4. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報
5. 海の生き物とその環境に関する本と web
6. 事務局便り
7. 編集後記

\*\*\*\*\*

### 倉沢栄一氏 逝く

7月21日、水中写真家の倉沢栄一氏が亡くなりました。海の生き物を守る会の会員でもある同氏のご冥福を心からお祈りいたします。 合掌



在りし日の倉沢栄一氏(右)

フィリピン・ミンダナオ島のマリタ海岸でジュゴン撮影の合間に

## 1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース

【国際】

●排水中の抗うつ剤、ヨコエビの行動に影響

世界的にうつ病が蔓延する中で、各地の下水道に垂れ流される抗うつ剤の残留物が海洋動物に影響を与えているという研究結果が発表された。イギリスのポーツマス大学のアレックス・フォード博士らが「Aquatic Toxicology」誌オンライン版に2010年6月に掲載された論文で発表したもの。実験は下水処理後の廃水に含まれる濃度の抗うつ剤フルオキセチンの水溶液に内湾性のヨコエビの一種を入れてその行動を観察したもの。論文によるとヨコエビは本来薄暗い物陰に生活するが、抗うつ剤の水溶液に影響を受けてヨコエビは、明るい方向に泳いでいく確率が通常の5倍もあったという。フルオキセチンの作用によりヨコエビの神経が脳内化学物質であるセロトニンの影響を受けやすくなり、異常な行動を起こす可能性があるという。異常な行動を起こすヨコエビは魚などの捕食者に食べられやすくなる。同博士は、抗うつ剤だけではなくもっと一般に使われている抗炎症剤や鎮痛剤など他の多くの処方薬も水生生物に被害をもたらしている可能性は大きいと警告している。都市排水に含まれる化学物質が海の生物にもさまざまな影響を与えていることは十分想像できるが、その一つ一つがどのような影響を持っているか、海の生き物について研究された例はまだわずかである。今後の研究が期待されるし、その成果をどう生かしていくかが重要になるだろう。

## ●ようやく油流出が止まる 分散剤の影響は？

メキシコ湾での原油流出事故は過去最大の油汚染を引き起こしているが、原因となったBP社はようやく一時的に原油の流出を止めることに成功した。今後、損傷したパイプの永久封鎖などの工事を行う予定である。流出した原油対策として大量の分散剤を使用したことから、分散剤の悪影響を指摘する声もあがっている。アメリカ環境保護局（EPA）は、分散剤についての試験結果を公表した。それによると「Corexit9500A」など8種類の分散剤を原油と混合して原油そのものと毒性を比較した結果、分散剤を混合した場合の方が原油だけの場合よりも毒性は低いという。

また、アメリカ海洋大気庁（NOAA）は、原油の流出が止まったことなどから、漁業を規制していた禁止区域の3分の1の区域で漁業規制を解除した。

## ●日韓で海洋環境保全に関して協議を開始

7月14日に鳥取県米子市で、海洋環境の保全に関する日韓協議が開始された。会議には両国の外交、海洋、水産当局者、地方自治体関係者、研究者、有識者などが出席して、漂着

ゴミの問題や放置漁具による魚の無駄な死を防ぐ問題などが話し合われ、今後も共同できれいで豊かな海を守るために協議していくこととした。

## ●海水温上昇で植物プランクトンが急減—カナダの大学が論文

世界の海で植物プランクトンが増加しているのか減少しているのかを調べた研究はほとんど無かった。内湾などでは富栄養化が進み、植物プランクトンが増加していることが知られている。赤潮を引き起こす植物プランクトンなどは急激な増加を示している。しかし、世界の海全体を考えた場合、まだ誰も植物プランクトンがどのように変動しているかは、わからなかった。世界の海の50万件に上る透明度のデータと植物プランクトンの繁殖速度を調べた結果、海の温暖化による海水温の上昇により、海の植物プランクトンは1899年以来、毎年平均1%の割合で減少していることを明らかにした論文が発表された。論文を発表したのはカナダのダルフージー大学の科学者チーム。イギリスのネイチャー誌に二つの研究論文を公表した。

論文によると、地球の海水温度は過去1世紀で0.5℃上昇したとされているが、植物プランクトンは、毎年1%の減少が推定され、比較的信頼できる1950年以降のデータをみれば、現在まで40%の減少がみられるという。その原因として、風の強さ、気象変動、酸素濃度、富栄養化などの要因を分析した結果、原因としてもっとも可能性が高いのは水温の上昇だったと結論づけた。さらに水温要因は生物多様性にも強い関係を持っていることも明らかにした。地球温暖化によって海水温の上昇が続けば、植物プランクトンのさらなる減少により生産性が減少し、生物多様性さえも減少していくことを予測させる結果になっている。

## 【全国】

### ●環境省が「里海ネット」の運用を開始

環境省が7月22日から環境省のホームページで「里海ネット」の運用を開始した。「里海ネット」は、「21世紀環境立国国家戦略」で「里海」創成を重点環境政策の一つとして明記し、「里海創成支援事業」を実施している環境省として、「里海」を国民に周知し、地域での「里海」づくりの支援を行うための情報を広く発進することを目的として作られた。

「里海」概念については、向井は国家戦略のパブコメでも使わないように環境省に申し入れたが、その際、環境省でも議論があり、態度を決めかねているという話があったが、「里海」を積極的に取り入れる方向に梶を切ったように見える。今回始まった「里海ネット」<http://www.env.go.jp/water/heisa/satoumi/>では、生物多様性を高める「里海」の例として、柳哲雄九大教授が書いた論文（2009）に依拠して、サンゴ礁でのオニヒトデ駆除やアイゴ駆除の例と、石干見（いしひみ）という魚を獲るための小規模の石垣造りの例をあげている。

これは、「里海」の定義に当てはまる実例を示してみよという向井の批判に対して柳氏が苦し紛れにあげた例であるが、オニヒトデの駆除活動がはたして「里海」だろうか。どちらも人手をかけて生物多様性を高めるという「里海」の例にはならない。読者のみなさんが考える「里海」とは、いったいなんだろう。この問題に関しては、あらためて解説を書く予定である。

## ●低潮線保全・拠点施設整備法基本計画が閣議決定

排他的経済水域（EEZ）および大陸棚の保全および利用の促進のための低潮線の保全および拠点施設整備に関する基本計画が閣議決定された。この基本計画は、外国からは島と見なされていない沖ノ鳥島を領土として確保し、EEZを保持するために沖ノ鳥島などの離島の海岸線を保全するためのもので、そのために港湾などを建設する方針を打ち出したものである。環境保全の視点はほんの付け足しだ。

## ●底質の水銀汚染は水俣湾だけではない

山口県周南市にある徳山港の埋め立て地では、かつて水銀に汚染された工場用地の土壌を埋め立てて管理している場所がある。そこからは地下水を通して水銀が大量に海に浸透しているという情報がある。そのような埋め立て地が徳山港の工場用地に囲まれて存在することは事実のようである。底質の水銀汚染が無処理のまま存在するのは、水俣湾だけではないようだ。そのような事実は、いくつかの海域で水銀汚染した底質が放置されているという。以下にその事例を列挙する。

場所	水銀濃度	水銀汚染土量
山口県徳山港	31ppm以上	36万m <sup>3</sup> 以上
千葉県千葉港(市原前面入江)	181ppm以上	46万m <sup>3</sup> 以上
福岡県大牟田川(港湾区域)	86ppm以上	102万m <sup>3</sup> 以上
三重県四日市港	105ppm	180万m <sup>3</sup> 以上
熊本県水俣湾	744ppm	250万m <sup>3</sup> 以上
東京都隅田川（尾久橋下流）	270ppm	1万m <sup>3</sup> 以上

## 【近畿】

### ●アカウミガメ 消波ブロックに捕まる

和歌山県白浜町の日置川河口の消波ブロックにアカウミガメがはまり込んで動けなくなっているのが発見された。ウミガメは駆けつけた町の職員らに救出されて海に戻った。重さ



30kg、体長 1m ほどのアカウミガメで、近くの砂浜にあがろうとして波に流され、消波ブロックに捕まえられたと見られる。ウミガメにとっては消波ブロックは産卵場所を奪ったのみならず、死のトラップにもなりうる危険な存在でもあることを身をもって証明したことになる。

### ●アライグマ対策で柵設置「ウミガメの卵を守れ」

和歌山県みなべ町の千里の浜では、アライグマの食害からアカウミガメの卵を守るために、防護策などが設置された。千里の浜は全国でも有数のアカウミガメの産卵地で、「ウミガメ研究班」が 1981 年から産卵実態の調査と保護に取り組んできた。かつてはアカウミガメの卵を食べるのはタヌキによる食害が主なものであったが、最近ではアライグマによる食害が頻発し始めた。昨年は産卵場所 172 ヶ所のうち 3 分の 1 がアライグマの被害に遭っている。研究班が設置した保護策はステンレス製のかご状の柵で、(株)ライオン油脂の提供を受けた。千里の浜では今年には大量のアカウミガメの産卵があった。昨年を大幅に上回り、最終的には 270 回でいと予測されている。

### ●鉄鋼スラグを用いた「環境修復」が各地に蔓延

神戸製鋼グループは、鉄鋼製造過程で作られる産業廃棄物の鉄鋼スラグを組み合わせた魚礁を製造し、兵庫県家島群島の西島近傍の水深 5-8m の海域に設置し、海藻の育成と漁場環境の改善を目指した調査研究を行っている。開始して 1 年経過し、海藻の繁茂や魚の集合が見られており、経過は順調だという。

兵庫県では、鉄鋼スラグが海洋環境の修復に効果があると言われていることから、資源循環型社会の推進をうたう「ひょうごエコタウン推進会議」の中に「鉄鋼スラグの利用拡大研究会」を設置し、鉄鋼スラグを海域で有効に活用するための方策を検討することにした。現在は先の実証実験をもとに鉄鋼スラグを活用した環境改善モデルを推進しているという。

同じような事例は全国に普及しつつある。産業廃棄物であり有害性が疑われている鉄鋼スラグを「循環型社会推進」という旗の下、海に入れて人工干潟や藻場造成基盤などに使おうという魂胆が見え透いている。このような事業にも「里海」創成と称して、海に人手を加えることの正当性を主張する論調がある。われわれが危惧してきた事態が全国に波及している。環境省はどういう対応をとるつもりだろうか。また、安易にこのような調査研究に乗っかる研究者の自重も促しておきたい。

## 【中四国】

### ●遺産審査委員が山陰海岸を視察

鳥取県・兵庫県・京都府にまたがる山陰海岸を世界ジオパーク（世界地質遺産）に登録しようとして申請している問題で、世界ジオパークネットワーク（GGN）の審査員らが現地を視察した。イギリスとギリシャの2名の審査員が、鳥取砂丘などの山陰海岸（鳥取県白兎海岸から兵庫県玄武洞、京都府の経ヶ岬まで）を見て回った。とくに、地質以外にも人のくらしとの関わりなどについて熱心に視察した。今年10月に登録の可否が決まる。

## ●“生きた化石”守ろう 山口でカブトガニ幼生調査

山口県山口市秋穂二島の山口湾の干潟で、カブトガニの調査が行われた。山口カブトガニ研究懇話会の原田代表が指導して2006年から行われているこの調査、今年は水産大学の学生ら約50人が参加して行われた。

山口県には3ヶ所のカブトガニ繁殖地があり、山口湾もその一つ。調査は目でカブトガニを発見するというシンプルな方法で行われた。見つけたカブトガニは殻長を測定して放流する。今年は約160匹とこれまでに比べてもっとも少ない結果となった。これまで2006年から555、442、265、210、160と年を追って少なくなっている。原田代表は、原因は不明としながらも、人間の影響であることは間違いないと危惧している。

## ●竹ヶ島のサンゴの産卵日を予測する

徳島県海陽町の竹ヶ島周辺の海域ではサンゴの「エダミドリイシ」が多く産するが、1975年時に比べて、2005年にはその40分の1と、近年大幅に減少している。竹ヶ島は海中公園に指定されているが、その自然はかつての豊かさを失っており、現在その回復を願って自然再生協議会が作られ、自然再生に向けた取り組みが始まっている。その一環として、エダミドリイシの産卵日を特定する研究が始められた。過去の記録によると産卵日は旧暦の7月2日前後に集中しており、その理由を調べている。協議会の調査によると、過去4年間の産卵は旧暦6月29日から7月4日までの中潮か大潮の夜に2日間続けて一斉産卵が行われた。産卵日を特定予測できれば効率的な産卵ができ、採卵して自然再生の足がかりにしたいと協議会では考えている。採卵してどう自然再生しようと考えているのかは不明だが、どうやらサンゴの養殖を考えているのではないだろうか。

## ●柏島のサンゴ回復の兆し？

高知県南西部の大月町柏島で、オニヒトデの駆除作業などのサンゴ保全活動が行われているが、死滅しかけていたサンゴが回復の兆しを見せていると報道された。でも保全活動のために回復しているのだろうか。保全活動にもいろいろ問題があり、オニヒトデの駆除作

業がサンゴの回復につながったのかどうか、良く見極めなければならない。マスコミ報道には、保全活動が行われていたら原因や過程を調べることなく、保全活動と生物の増加を単純に結びつけて報道する非科学的な態度が多いので注意して読む必要がある。

## 【九州】

### ●諫早干拓開門求める訴訟 12月6日に判決

有明海沿岸の漁民らが国に国営諫早湾干拓事業の潮受け堤防の排水門開門を求めて裁判に訴えている。佐賀地方裁判所は潮受け堤防の締め切りと諫早湾とその周辺の漁業被害の因果関係を認めて国に5年間の常時開門を命じたが、国が控訴している。控訴審は、8月9日に原告側の漁業者二人が「諫早湾の閉め切り以降、赤潮の発生におびえる毎日。有明海が壊れていく速度は漁業者の限界をはるかに超えている。私たちを、有明海を見捨てないでほしい」などと意見陳述して結審した。判決は12月6日だが、原告側の証人申請を却下するなど訴訟指揮のやり方を見ると判決はどうなるか判らない。

同事業で完成した農地の取得に県が公金を支出するのは違法だとして県民有志が県に公金返還を求めた訴訟も同じく結審し12月6日に判決言い渡しが行われることになった。

### ●八代海赤潮 警報解除 被害広がる

熊本県は、八代海の赤潮警報を1ヶ月半ぶりに解除した。鹿児島県も解除し、赤潮も一段落となった。しかし、被害は広がっており、熊本県では養殖魚が約108万匹と大量に死亡し、被害額は約16億円にのぼる。一方、鹿児島県でも長島町の二つの漁協で約170万3千匹、36億8千万円に達したと発表した。過去最大の被害。

## 【沖縄】

### ●基地建設につながる調査は拒否 名護市

沖縄防衛局はこれまで進めている辺野古沿岸の自然環境調査を継続するための申請を名護市に提出していたが、名護市では、稲嶺市長の「海にも陸にも新基地はつくらせない」とする公約に照らし、新基地建設のための調査であることが明らかなものについては拒否することを決めた。拒否することにした調査は、辺野古沿岸でのソナーを使ったジュゴンなどの水生動物の調査。また、漁港施設の使用申請については基地建設の調査のためであることは明白として拒否することを確認した。一方、大浦湾のマングローブなどの生態系調査、生物調査は、基地建設との関連があるかどうかを防衛局に問い合わせを行った。自然現況調査について、沖縄県は「(基地建設のための)国のアセスはまだ終わっておらず、拒否する理由がない」として許可を出している。沖縄防衛局は現況調査はアセスメントとは無関係としている。



## ●民主党政権 I字案を提示 辺野古基地計画

県外・国外を模索していた鳩山政権が辺野古に回帰して日米共同声明を発表したが、新しい菅政権はその路線を踏襲することにし、辺野古沖埋め立てによる基地建設計画案を検討している。自民政権が最終的に到達した辺野古沿岸 V 字案と沖合理め立て I 字案を比較して、民主党政権は埋め立て面積が 25%、必要な土砂が 10%減少すると称して I 字案を進める構えだ。両案をもとに、日米の外務・防衛当局の審議官級協議も開かれており、今月末にまとめる報告書には両案が併記される見通しだ。

政府の試算によると、V 字案の場合は、海面埋め立て面積は 160 ha、I 字案では 120 ha。埋め立てに伴うサンゴ礁の消失面積は、V 字案では 6.9 ha だが、I 字案では 5.5 ha とされる。ジュゴンの生息に必要な藻場の消失面積も、V 字案では 78.1 ha だが、I 字案では 67 ha に減らせるとしている。しかし、これらは直接埋め立てられる面積であり、基地建設により辺野古沖の生態系は壊滅的な打撃を受けると考えられており、V も I も五十歩百歩に過ぎない。もうこれ以上、沖縄の海を埋め立てることはやめて欲しい。

## ●泡瀬埋め立て再開へ 「経済合理性」を国が認める

福岡高裁那覇支部が泡瀬干潟埋め立て事業の土地利用計画に「経済合理性がない」として住民が訴えた開発計画への公金支出差し止めを認めた判決が国側が控訴を断念して確定しているが、沖縄市の東門美津子市長が新たな開発計画を立案し、前原誠司国交相（沖縄担当相）に提示し、前原大臣は経済合理性があると判断して中断している一期工事を再開することを決めた。しかし、今年度はすでに国は支出を止めており、工事再開は 2011 年以降となる。

新しい計画案では、二期工事は中止し、一期工事は約 96 ha に半減し、スポーツ交流拠点などを整備するとするもの。それでも泡瀬干潟の 265 ha の 3 分の 1 に当たる部分を埋め立てることになる。また、埋め立て地の外枠工事が終わった段階の一期工事の影響はすでに深刻で、泡瀬干潟のアマモ場はほぼ全域で消滅しているという。たとえ面積を縮小しても泡瀬干潟の生態系はほぼ壊滅することは必至である。日本有数の干潟を埋め立てて、人工ビーチを造るなどと言う計画が真顔で語られる日本の開発とはいったい何という愚かしさだろうか。日本人はそんなに金持ちなのだろうか。

# 2. 海の生き物を守る会 現在の活動と予定

## ●茨城県平磯海岸の観察会に参加しませんか

今年第3回の海の生き物観察会は、8月28日（土）に、茨城県大洗の平磯海岸で、茨城県ミュージアムパーク自然博物館のご協力をいただき、行います。大洗水族館見学も予定しています。夏休み最後の週末です。子どもさんも含めてご家族みなさんでご参加ください。参加希望者は事前にご連絡下さい。連絡先は、090-8563-1501 もしくは 090-9830-4871（向井）です。小雨の場合は決行しますが、大雨の場合は、水族館見学のみとします。

海の生き物を守る会 主催

## 磯の生物と 海岸の自然 観察会



磯の観察終了後は大洗水族館の見学もあります。バックヤードの観察も。  
参加申し込み先:090-8563-1501(向井)



日時:2010年8月28日(土)10:00~13:00  
場所:茨城県ひたちなか市平磯町平磯海岸  
集合:平磯海岸(栽培技術センター前)10:00  
(駐車場有り)

指導:池澤広美(ミュージアムパーク茨城県  
自然博物館主任学芸員)  
向井 宏(海の生き物を守る会代表)

参加費:無料

持ち物・服装:濡れても良い服装と運動靴、着替え  
手袋、弁当(大洗水族館に食堂有り)、ビニール  
袋など。あればいいもの:カメラ、図鑑、水中メ  
カネ、バケツなど

## 3. 海の生き物を守る会 活動報告

### ●第2回講演会と映画会・観察会 北海道厚岸で実施

今年度第2回目の「海の生き物を守る会」講演会は、映画上映会を兼ねて7月31日（土）と8月1日（日）に北海道大学厚岸臨海実験所アイカップ博物館で、行いました。合計20名が参加、上関の海で起きている事態を鎌仲ひとみ監督の映画「ぶんぶん通信」を見て理解していただきました。8月1日の大黒島観察会は、強風のため船が出せず急遽、アイカップ岬での観察会に切り替えて行いました。





アイカップ岬の海岸で海の生き物を観察し学ぶ参加者たち



アイカップ岬で植物を観察する参加者

## 4. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

### 映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映情報

▼全国各地で上映会がスタートしています。 <http://888earth.net/trailer.html> (随時更新)

秋田リレー上映会 (8/20 北秋田、8/21 秋田市、8/22 湯沢市)

21日(土) 岐阜市、25日(水) 大阪市、27日(金) 練馬区、

28日(土) 山形県鶴岡市、新潟県柏崎市、

29日(日) 富山県高岡市

広島市、愛知県、高知県、横浜市、国立市、世田谷区

そして、石川県金沢市、福島市での劇場公開が始まります！

▼石川・シネモンド、福島フォーラム9月劇場公開スタート

【シネモンド】金沢市香林坊 109 4F (076-220-5007) <http://www.cine-monde.com/>

9月18日(土)～9月24日(金) 14:10～

9月25日(土)～10月1日(金) 20:10～

9月20日(月・祝) 上映後、監督ティーチン (チケット絶賛発売中！)

9月23日(木・祝) 上映後、監督舞台挨拶

このほか市民有志の実行委員会による自主企画も予定されています。くわしくは、サイトをご覧ください♪ぶんぶん石川> <http://banbi.haisai.me/888/>

▼【福島フォーラム】福島市曾根田町 6-4 <http://www.forum-movie.net/fukushima/>

初日、上映記念！鎌仲ひとみ監督トークショー！

9月25日(土) 18:30～トークショー 19:30～映画上映

限定前売券 1500円！ 詳細はこちら→ <http://forum-movie.net/fukushima/mitsubachi.pdf>

9月26日(日)～10月1日(金)11:00/18:30

10月2日(土)～10月8日(金)11:00

\*映画のみの前売券 1000円で発売中！

大阪シネ・ヌーヴォ、名古屋、広島、京都など 続々と劇場公開決定！

### 【北海道】

#### ●コバヤシカヨ写真展 「海獣たちのいるところ」開催

OWS サポーター、コバヤシカヨさんがえりも岬で写真展を開催します。えりも岬のゼニガタアザラシを中心に久米島のザトウクジラ、御蔵島のミナミバンドウイルカなど日本国内の海棲哺乳類の写真を展示。

哀悼の意を込めて敬愛する写真家・倉沢栄一氏に捧げます。

開催日 2010年8月7日(土)～29日(日)

開催場所 襟裳岬「風の館」

〒058-0343 北海道幌泉郡えりも町字東洋 366-3

TEL:01466-3-1133 FAX:01466-3-1135 <http://www9.ocn.ne.jp/~kaze/>

入場料 無料

## 【関東】

### ● 海辺のナチュラルリスト講座（スタッフ研修特別コース）開催

今年度、OWS では子供を対象とした海辺で行う自然体験学習プログラム「ネイチャースクール三浦（日帰り）」を7回以上実施します。この特別コースでは、ネイチャースクールの実施準備のほか、海辺の自然や生き物と親しみ、楽しみながら自然を守るための基礎的な知識や方法を学べます。参加者には修了証として「ナチュラルリスト」カードが発行されます。スノーケリングやダイビングなど特別なスキルは必要なく、健康な方ならどなたでも参加できます。この機会にぜひご参加ください。

▼ネイチャースクール ⇒ <http://www.ows-npo.org/activity/uminoko/index.html>

開催日 2010年9月4日（土）～5日（日） 1泊2日

場所 三浦半島

募集人数 6名（最少催行人員3名）

受講費 7,000円（特別価格） ※通常受講費は13,800円

※別途、宿泊費（1泊2食付：8,000円）、食費、往復交通費

対象者 1回以上ネイチャースクールにスタッフとして参加できる方 ※要メンバー登録  
ネイチャースクール三浦（日帰り）開催日

9月11日(土)、9月25日（土）、10月以降ほか2回開催予定

申込み・問い合わせ

OWS 事務局までホームページから、またはE-mail、お電話にてご連絡ください。

(TEL:03-5960-3545) ⇒ <http://www.ows-npo.org/volunteer/index.html#ns1>

### ● 「そうだ！海だ！海藻だ！」ーいのちをつなぐ海の森ー

#### ミュージアムパーク茨城県自然博物館 第49回企画展

期間：2010年7月10日(土)～9月20日（月・祝日）

開館時間：09:30～17:00 休館日：毎週月曜日（祝日は開館）

入場料：大人 720円 高校・大学生 440円 小中学生 140円

### ● がたモニー江戸前干潟のモニタリング

「がたモニー」は江戸前三枚洲の干潟を守る市民参加の活動です。干潟の生物の多様性を知るために貝やカニなどの底生生物を定期的に調査します。専門の指導員が参加するので、初めての人でも調査できます。



日時：2010年9月5日（日） 9:15～11:00

集合場所：葛西海浜公園 西渚案内所前集合

実施場所：葛西海浜公園「西渚」の干潟

講師：風呂田利夫（東邦大学教授）、池田正人（葛西臨海水族館）ほか

持ち物：帽子、長靴、汚れてもよい服装、飲み物

参加費：無料 干潟を歩いて泥をほれる人ならだれでも参加できます。昼休みのあと、希望者は生物の同定作業に参加できます。

申込、お問い合わせ先：認定 NPO 法人 生態工房 東京都杉並区松庵3-38-14-2D

電話、FAX 03-3331-5004 e-mail：[info@eco-works.gr.jp](mailto:info@eco-works.gr.jp) HP：<http://www.eco-works.gr.jp>

## ●日本湿地学会 第2回大会

大会日程 2010年9月4日(土)

会場 法政大学（市ヶ谷キャンパス）

一般口頭発表第一部（午前10:00～12:00）

1. 「釧路湿原におけるハンノキ林域拡大について」 橘治国・木内伸洋・鳴海啓太・口町紗英子・中村信哉・永礼英明・加藤邦彦・辰巳健一
2. 「釧路湿原におけるハンノキの形態と冠水環境への適応について」 矢野雅昭・水垣滋・林田寿文・村上泰啓・
3. 「北海道ウトナイ湖における高茎湿生草原の群落種組成と分布環境」 矢部和夫・種村直子
4. 「ヨシ濾床伏流式人工湿地による酪農パーラー排水の浄化」 井上京
5. 「静岡県における棚田の景観と生物相の再生」 下田路子・稲垣栄洋
6. 「再生氾濫原アザメの瀬の有する生態的機能に関する研究報告」 林博徳・島谷幸宏・小崎拳・辻本陽琢・池松伸也
7. 「ラムサール条約登録5年目を迎えた宍道湖・中海」 國井秀伸
8. 「日本における wetland としてのカキ礁生態系の現状と価値」 山下博由・森敬介・佐藤慎一・池口明子・伊藤恵子・牛野くみ子

特別セッション「生物多様性と湿地」（13:30～16:00）

コーディネーター：辻井達一（日本国際湿地保全連合、日本湿地学会会長）・草刈秀紀（WWF ジャパン）・石原博（経団連自然保護協議会企画部会長、住友信託銀行企画部社会活動統括室審議役）・渡辺綱男（環境省自然環境局審議官）・小栗有子（鹿児島大学生涯学習教育研究センター准教授）・島谷幸宏（九州大学工学部教授、日本湿地学会副会長）

一般口頭発表第二部（午後16:00～18:00）

9. 「北海道のラムサール湿地の現状と課題」 牛山克巳
10. 「環境教育における法教育の実施について」 中村有利子
11. 「『湿地の文化と技術』 インベントリー作成の中間報告（その2）」 笹川孝一・辻井達

一・佐々木美貴・名執芳博・安藤元一

12. 「干潟生物の市民参加型調査手法と研修会」佐々木美貴・中川雅博・鈴木孝男

13. 「韓国朝鮮における干潟の民俗と表象」宇田川飛鳥

14. 「インドネシア中部カリマンタン州の熱帯泥炭地における地下水位変動と泥炭火災」  
佐藤空

15. 「自動撮影調査から見た東アジアのフライウェイ湿地における陸生哺乳類」安藤元一

16. 「フィリピン・ミンダナオにおけるジュゴンの保全とバナナ・プランテーション」Emily  
Antonio・向井宏

★自由討論「学際的な湿地学をめざして」 (18:00～18:30)

懇親会(19:00～21:00)

### ●北限域の造礁サンゴ分布調査 北川探索調査 参加者募集

造礁サンゴ探索調査を東伊豆の北川で実施します。メンバーによる下見では、複数の造礁サンゴ群集が確認されており、あらためて探索調査を実施する運びとなりました。どんな造礁サンゴがどのくらい確認できるか、大いに期待されます。来年3月発行予定の「造礁サンゴフィールド図鑑」(後編)に掲載するための写真撮影も行います。調査が初めての方もご遠慮なくお問い合わせください。

開催日 : 2010年8月8日(日) 日帰り

開催場所: 静岡県賀茂郡東伊豆町北川

募集人数: 10名(最少催行人員5名) ※催行決定※

集合 : 伊豆急行線「城ヶ崎海岸駅」9:15集合

参加実費: 17,000円 ※2ボートダイビング費・保険料含む

対象者 : ボートダイビングの経験者・30本以上の潜水経験者

申込締切: 8月6日(金) 17時までに OWS 事務局にご連絡ください。

詳しくは、こちらをご覧ください⇒ <http://www.ows-npo.org/activity/sango/discovery.html>

### ●第55回トークセッション 「水生生物のバイオロギングサイエンス」

ゲストスピーカー 佐藤克文(東京大学大気海洋研究所 准教授)

近年、動物搭載型記録計を使ったバイオロギング手法が開発され、観察が難しい水生動物(魚類・爬虫類・鳥類・哺乳類)に応用されています。その結果、例えば、体重500グラムの海鳥の羽ばたき周波数を測定する事により、持続的飛翔が可能な最大サイズが推定できるようになったり、30トンのクジラの巡航遊泳速度が計測できるようになったり、とさまざまな情報が明らかになりつつあります。

今回のトークセッションでは、このバイオロギングを活用した野外調査の推進責任者として活躍している佐藤先生に、最前線の苦勞と調査の醍醐味などをご紹介します。

開催日 2010年9月15日(水) 19:00～20:30(18:30受付開始)

会場 環境パートナーシップオフィス EPO会議室  
地図：[http://www.geic.or.jp/geic\\_sample/intro/access.html#epo](http://www.geic.or.jp/geic_sample/intro/access.html#epo)  
営団地下鉄「表参道」駅 B2出口 徒歩5分  
JR「渋谷駅」東口 徒歩10分  
参加費 800円  
申込み ⇒ <http://www.ows-npo.org/activity/ts/index.html#ts55>

## 【東海】

### ●瀬戸内海の生物多様性保全のための第5回三学会合同シンポジウム in 名古屋

#### 「上関(かみのせき):瀬戸内海の豊かさが残る最後の場所」

瀬戸内海は、日本の沿岸海域の中でひととき高い生物生産力と生物多様性を有する内湾でしたが、その生物学的な豊かさは、近年の沿岸開発によって大きく損なわれてしまいました。その中で周防灘の上関周辺は、本来の豊かさがよく残されている稀な場所です。しかし、今ここに、原子力発電所の建設が計画されています。その環境アセスメントはきわめて問題の多いもので、これに対して、生物学研究者の組織である3つの学会（日本生態学会、日本ベントス学会、日本鳥学会）は、生物多様性保全の視点から、もっと慎重な環境アセスメントを求める要望書を事業者に提出しています（合計12件）。しかし、これらの要望書は、全く無視され、埋め立て工事が着工されようとしています。

このままでは、今までかろうじて残されてきた瀬戸内海本来の豊かさが完全に失われてしまうかもしれません。そのような取り返しのつかない損失を防ぐために、学会の「要望書」の内容を多くの人に知っていただきたいと考え、一般公開のシンポジウムを企画しました。

**開催日：** 2010年9月23日（木、秋分の日）午後13:30～16:30

**会場：** 南山大学名古屋キャンパス B棟 B21 または B22 教室（予定）（名古屋市昭和区山里町18, [http://www.nanzan-u.ac.jp/Information/navi/nagoya\\_main.html](http://www.nanzan-u.ac.jp/Information/navi/nagoya_main.html)

地下鉄名城線「名古屋大学」駅1番出口より徒歩約8分、山手通門をお入り下さい。周辺は全面駐車禁止となっておりますので、自家用車での参加はご遠慮下さい。

**参加費：** 500円（資料代）

**主催：** 日本生態学会 自然保護専門委員会・日本鳥学会 鳥類保護委員会・日本ベントス学会 自然環境保全委員会

**後援：** 日本魚類学会自然保護委員会ほか

**事務局、問い合わせ先：**

日本生態学会上関原子力発電所問題要望書アフターケア委員会

代表：安溪遊地（Tel: 083-928-5496、e-mail: [ankeiyuji@gmail.com](mailto:ankeiyuji@gmail.com)）

庶務：佐藤正典（Tel: 099-285-8169、e-mail: [sato@sci.kagoshima-u.ac.jp](mailto:sato@sci.kagoshima-u.ac.jp)）

プログラム：

はじめに「学会からの要望書提出の経緯」佐藤正典（鹿児島大学）

講演「周防灘に残されている瀬戸内海の内原風景」加藤真（京都大学）

学会からの要望書の説明

安溪遊地（日本生態学会上関問題要望書アフターケア委員会委員長）

コメント「生物多様性条約に基づく国の政策」国会議員（調整中）

そのほかコメント 2-3 題を予定

質疑応答

**【近畿】**

●日本生態学会近畿地区会 2010年度フィールドシンポジウム  
「和歌浦干潟にみられる最近の生物の変調」

主催：日本生態学会 近畿地区会

日時：2010年8月21日（土）11:00～15:30

場所：和歌山市 和歌浦干潟（観海閣周辺）

\*当日は車でのご来場も可能です。ただし無料駐車場には限りがあります。

午前の部：観海閣周辺 11:00～12:30 現地視察

昼食（弁当を準備します）

午後の部：和歌山県公館 13:30～15:30 解説

古賀庸憲（和歌山大学教育学部教授）・大畠麻里（奈良女子大学博士研究員）

15:30 閉会

\*長靴をご持参下さい。また暑いので熱射病対策と、雨が予想される場合は雨具の準備もお忘れなく。

〒630-8506奈良市北魚屋西町 奈良女子大学理学部内日本生態学会近畿地区会事務局

[kinki\\_office@cc.nara-wu.ac.jp](mailto:kinki_office@cc.nara-wu.ac.jp) 0742-20-3424 (tel, fax とも) (庶務：遊佐陽一)

担当責任者：古賀庸憲（和歌山大学教育学部）[tkoga@center.wakayama-u.ac.jp](mailto:tkoga@center.wakayama-u.ac.jp)

●映画「祝の島」上映予定

上映会場:京都シネマ

8/14(土)～20(金) 15:10～ 17:25～

8/21(土)～27(金) 17:05～

●第21回少年少女の「海のアドベンチャースクール」

8月21(土)～22日(日) 21日10:00～22日16:00

たつの市御津町 新舞子海岸 宿泊 民宿「かとれや」 079-322-1591

小学3年～中学3年生 男女30人まで 保護者同伴可

参加費 一名 8,000円

申し込み締め切り 8月14日

主催・申込先 播磨灘を守る会・海のAS実行委員会

TEL 079-322-0224 fax 079-322-8855

### ●第33回瀬戸内沿岸住民集会 in 神戸

8月28日(土)13:00~19:30 ビブレ新長田 会議室A (JR 新長田駅南側徒歩1分)

住民集会基調講演「海浜植物から見た瀬戸内の環境」

集会後17:30より懇親会

参加費 500円 (資料代として) 懇親会 4000円

主催 瀬戸内の環境を守る連絡会 共催 すま・はまの会

連絡先 TEL 078-921-1193 fax 078-912-0700

### 【中四国】

### ●第48回八間川調査

8月29日(日)~ \* 八間川は倉敷市水島地内の小河川

8:30~11:30 倉敷市水島 水島東川町公民館 八間川大根洗い場

主催 水島地域環境再生財団 (みずしま財団)

連絡問合せ TEL 086-440-0121 fax 086-446-4620

### ●シンポジウム「生命あふれる錦海湾に」

～ 瀬戸内海の漁業の再生・復活を考える ～

9月19日(日) 14:00~16:30 瀬戸内市中央公民館 (岡山県瀬戸内市尾張)

参加費 入場・資料代500円

主催 「生命あふれる錦海湾に」シンポジウム実行委員会

事務局 0869-24-0022 福光さん

### ●海岸生物調査 環瀬戸内海会議

8月8日(日) 香川県 観音寺市 3ヶ所で定点調査

13:30 余木崎 コンビニ隣 駐車場集合

(問合せ 090-7140-3150 観音寺市につるを呼ぶ市民の会 ・斎藤)

8月21日(日) 愛媛県 伯方島

9月5日(日) 香川県 小豆島・四海目島海岸

14:00 集合 (問合せ 0879-62-1689 富田)

連絡先 環瀬戸内海会議生物調査担当 小西 良平 [rkshizutani@mx1.tiki.ne.jp](mailto:rkshizutani@mx1.tiki.ne.jp)

同事務局 松本 宣崇 [nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp](mailto:nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp)



## 5. 海の生き物とその環境に関する本とweb

●「われから かいそうにすむちいさないきもの」 青木優和（文）畑中富美子  
（絵） 自費出版 ¥450

「われから」は海藻に住んでいる小さな生物、甲殻類なのです。「われから」は、なんと子育てもするのです。そんな「われから」の生態を、わかりやすく絵本にまとめました。世界初の「われから」の絵本です。主人公はオスのかぶかぶくんとメスのれられらさん二匹のわれからと、彼らの住む海の中の世界のお話です。



大手出版社からの出版が適わなかったなので、私家版として制作し、地元下田市のお茶屋さんのネットショップをお借りして、ネット販売中です。送料込みで、1冊 450円です。

<http://item.rakuten.co.jp/tea-arai/warekara/>

●「平成21年度ウミガラス保護増殖事業報告書」環境省北海道地方環境事務所  
国内では北海道の天売島のみで繁殖しているウミガラス個体群の回復に向けての取り組み  
の報告です。内容は平成21年度の結果だけでなく、過去のことも触れています。  
この報告書のPDFファイルを以下のサイトで公開していますので、興味のある方はご覧  
ください。[http://www3.town.haboro.hokkaido.jp/seabird/ororon\\_2009.pdf](http://www3.town.haboro.hokkaido.jp/seabird/ororon_2009.pdf)

## 6. 事務局便り：

- この「うみひろも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。配信が迷惑と思  
われる方は事務局までご連絡ください。
- 企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。  
また、本会では事務局のお手伝いをしてくださるボランティアを募集しています。石の  
ある方は事務局までご連絡下さい。遠方でもお手伝いしていただけることがあります。
- このメールマガジンは、毎月1日と16日の2回発行の予定ですが、都合によって遅延や  
中止もあります。配信を希望する方、送りたい方がありましたらアドレスをお知らせく  
ださい。また、パソコンを使えない環境の方には印刷体でもお届けします。その場合は、  
郵送料をご負担していただくことがあります。
- このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでい  
ただくために転送をお願いします。ただし写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡  
ください。海の生き物や守る運動についての情報など、また各地で行われている海の生物  
の観察会、研修会、その他の行事に関する情報もお寄せください。「うみひろも」のバック  
ナンバーは、ホームページからダウンロードできます。
- 本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催  
をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ごい  
っしょに講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。
- 本会への寄付をお寄せください。寄付も会費も同じ銀行口座「ゆうちょ銀行 口座番号：  
10610-6673021 海の生き物を守る会」へお送りください。なお、送金さ  
れる場合は、送金の内容について事務局にお知らせ下さい。

## 7. 編集後記

暑い。とにかく暑い。異常な暑さと異常な豪雨が異常でなくなりつつある。汗を流しながらの編集作業でした。一会員から以下のようなメールをいただきました。Nagisa という雑誌に書いた海洋保護区に関する私の記事の中で、現在のような海洋生物保全を漁業者に任せている日本の政策では、北方四島が日本へ帰ってきたらたちまち四島の豊かな自然は壊滅的になるだろうということを書いたことに対する反応です。『nagisa の記事読ませて頂きました。実は私も北方領土の問題は同意見です。以前から、ロシア側での漁船の操業が問

題になっていますが、同じ海域でロシア側で魚が取れるのは明らかに（日本側が）取り過ぎだと感じていました。今、もし返還があったとしても何年間かは豊漁かも知れませんがその後は資源が枯渇する事が目に見えています。国後島にはヒグマが独自に進化し、相当数が白くなっていると聞きます。また、知り合いのニホンオオカミの会の方から択捉島にニホンオオカミが生き残っている可能性があると聞きました。その方も日本に返すべきでは無いと考えております。領土返還より北方領土世界自然遺産に登録する事を進めるべきだと思います。また、そもそも北方領土アイヌの土地であり、近代に和人が略取した土地です。返還すべきはアイヌの人々だと思います。アイヌも沖縄も都合の良い時だけ日本人にされている様に感じます。』ヒグマが白くなるというのは、体が大きくなり雄の背中の白い毛が増えることを言うのだと思います。それだけ餌が豊富で成長が良いということでしょう。この意見には異論のある方もあるでしょうが、日本がもっと海洋保護区を積極的に設置して、漁業者に任すのではなく、国が責任をもって海洋生物の保護に向けて進んで欲しいと思うのです。(宏)

**海の生き物を守るためになにかしたい！というあなたに！**

## 会員募集中です！

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。会費は個人 2,000 円/年、団体 20,000 円/年。匿名による参加も可能です。会員は、当会の名前を使って各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行うことができ、そのための助成金申請をすることができます。活動は当会の発行するメールマガジンなどを通して広く通知されます。入会希望の方は、事務局 [hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp](mailto:hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp)（向井）まで、氏名、住所、メールアドレスをお知らせください。



メールマガジン『うみひろも』第 64 号

2010 年 8 月 16 日発行

発行&編集人「海の生き物を守る会」

代表 向井 宏

〒606-8244 京都市左京区北白川東平井町 23-1

グリーンヒル北白川 23

TEL&FAX:075-703-7205; 090-8563-1501 メールアドレス：[hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp](mailto:hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp)

ホームページ URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

銀行口座：ゆうちょ銀行 口座番号：10610-6673021 海の生き物を守る会